

3.4.2 アクティブ・ラーニングと探究活動を視点とした授業改善

担当：山本 真秀

実施時期：令和3年4月～令和4年3月

対象生徒：全校生徒

1. 研究開発の経緯と目的

学習指導要領（平成30年告示）で求められる主体的で対話的な深い学びを実現する手段としてアクティブ・ラーニングや探究活動を視点とした授業改善の必要性が増している。本校では、開校以来全生徒が総合的な探究（学習）の時間を「神戸学」として探究活動に取り組んできた。また、SSHの指定を受けて「神戸学」の更なるレベルアップと学校設定科目での探究活動を実施している。これらを基として、全ての教科での授業改善を図る。

本年度より全年次で電子黒板を導入しており、GIGAスクール構想に先立ち、1年次では全生徒が1人1台のタブレット端末を所有し、Microsoft Teamsのアカウントを神戸市より付与されている。これらのICT機器を有効活用し、授業改善をより効果的に実施する。

2. 仮説

多様な教科で、ICTを活用した授業手法による主体的な学びや授業内容の改善による主体的な学びを実現する。このような学びによって、論理的思考力や表現する力が高まり、課題研究や探究活動の発展に繋がると考えた。本事業により育むことができる力は以下の通りである。

	課題 設定力	企画 協働力	論理 考察力	自己 学習力	表現理解力		ICT 活用力
					発表	質問	
仮説	○	○	○	○	○	○	○

3. 研究内容・方法

本事業の主な活動内容は以下の通りである。

- ・教員対象の多様な研修会への参加、進路関連企業等からの情報収集を進める。
- ・授業改善・新入試対策の関連書籍を購入する。
- ・授業改善を率先的に進め、研究授業等を実施し、校内での授業改善の指揮を執る。
- ・生徒対象のアンケートや教員の授業振り返り、授業見学を通して、授業改善・評価改善を行う。
- ・授業改善・評価改善実施のシステムを構築する。
- ・オンライン等を活用した授業手法の検討を行う。
- ・探究活動実施の一環として教員研修を行う。

これらの活動の中で本年度特筆すべき取組を下記に示す。

- ・生徒対象のアンケートや教員の授業振り返り、授業見学を通して、授業改善・評価改善を行う。
- ・授業改善・評価改善実施のシステムを構築する。

校内専門委員会である学力・授業力向上委員会を中心として、教員の授業相互見学週間を実施し、教員がお互いの授業について検討・改善が促される取組とした。また、同委員会による授業アンケート調査を実施し、授業内容や進度等に関して生徒の要望が教員に届きやすいシステムを構築した。

- ・オンライン等を活用した授業手法の検討を行う。

1 年次における「化学基礎」や「神戸サイエンス①」、「現代社会」、「国語総合 A」等の授業を中心として **Microsoft Teams** を活用した個別最適化した学びである、オンラインでの議論協議、オンライン学習を実施した。タブレット端末と併せて、夏季より電子黒板も導入されており、授業の電子化により画像や動画などの視覚教材のさらなる活用や効果的な授業展開を実施した。

- ・探究活動実施の一環として教員研修を行う。

探究活動の指導に関する教員研修を 3 回、ICT 活用に関する教員研修を 3 回実施した。探究活動の指導に関する教員研修については、校外の講師を招いての研修を 1 回、残りの 2 回については校内の探究活動の指導に長けた教員より、校内の実情に合わせた研修を実施した。ICT 活用に関する教員研修については神戸市教育委員会と連携し、新しいツールである **Microsoft Teams** や電子黒板に関する基本的な利用方法から他校での活用例までを含めた研修を実施した。

教員研修の実施については校内に留まらず、兵庫県高等学校教育研究会科学部会における研究発表や神戸市立高等学校理科数学グループにおける教育実践研修等の場でも本校の取組を共有し、その成果の普及を図った。

4. 検証

昨年度に引き続き、授業改善・評価改善について検討の中心機関となる学力・授業力向上委員会により相互授業見学週間や授業アンケート書式の統一などシステムの基盤となる取組を実施している。

今年度より 1 年次において 1 人 1 台タブレット端末を導入し、**Microsoft Teams** を取り入れた授業の推進・教員の研修を行った。**Microsoft Teams** によって教員からの一方向的な教材の発信にとどまらず、課題の提出をはじめ生徒からの発信も組み込むことができ、教員と生徒、また生徒どうしの双方向的なコミュニケーションのツールとして有効活用することができた。また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、オンラインで一部の教材を **Microsoft Teams** で配信することにより、自宅待機となった生徒の学習支援に役立った。これらの取り組みは GIGA スクール構想実現に向けての足掛かりになったといえる。しかしながら、タブレットの不調や Wi-Fi の不具合が目立ち、対応に苦戦したため、次年度への課題として取り組んでいく必要がある。

電子黒板の活用については、映像や画像、文章等の教材の提示をはじめ有効に活用できている場面もある一方、教員間の ICT 活用の能力の差が見られる場面もある。その差を最小化するため、研修会や授業改善を引き続き推進する必要がある。

このような授業改善の取り組みにより、生徒の主体的な学びの機会が増え、論理的思考力や表現する力の向上につながっていると考える。今後、上記の改善点に取り組みながら GIGA スクール構想に基づき ICT を活用した探究的かつ教員・生徒との双方向的な授業、教員の研修、授業評価の推進を行うことで、アクティブ・ラーニングと探究活動の観点から、今後の事業の発展が期待できる。